

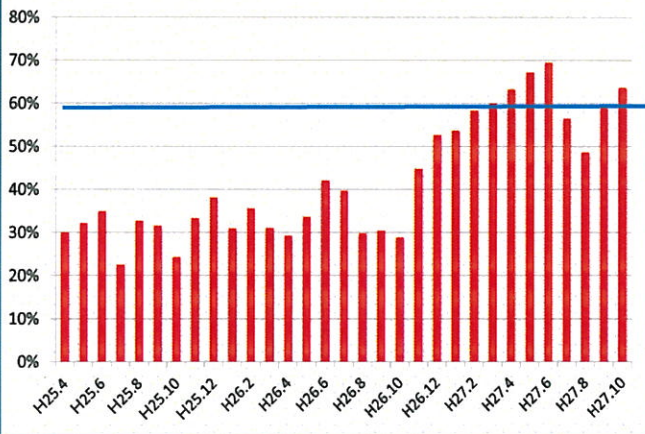
年末にあたっての御礼とご挨拶 平成27年12月

町立西和賀さわうち病院

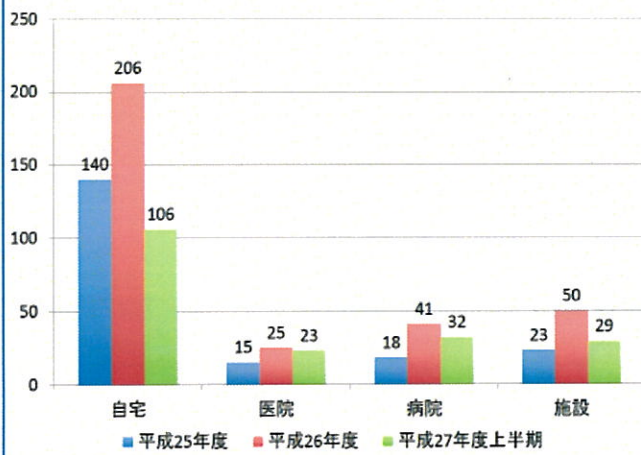
院長・医療福祉連携室長

北村 道彦

さわうち病院 病床利用率の推移



さわうち病院 入院の内訳



日頃、患者さんのご紹介等で大変お世話になっております。

さわうち病院は移転開院後1年が経過しました。平成27年の上半期の医事の数字を振り返りますと、入院患者数は順調に伸び、病床利用率は目標の60%をクリアできました。紹介患者数も順調に伸びております。連携体制が昨年より更に強化されたことを実感しています。当院・当地域は、急性期医療を北上、盛岡、横手をお願いしていることから、回復期や維持期の町民の受け入れを積極的に行ってまいりましたが、最近は北上に住所のある患者さんを受入れるケースも出てきています。また、大腿骨骨折の地域連携パスを使用する患者さんの紹介もいただくようになってきました。町内の施設に限ってみても、開業の先生が在宅で治療している患者さんや、介護施設入所中の患者さんの入院も増えています。まさに、「ときどき入院、ほぼ在宅（施設）」という、高齢化の町にふさわしい医療が行われつつあります。今後は、介護との連携強化も並行して進めて行きたいと感じています。

師走を迎え何かとお忙しい毎日と思います。どうぞご自愛なさり、良い年をお迎え下さい。

専門外来の受診は当院へ

診療科	診療日	受付時間
小児科	毎週月曜日	午後 1:00~3:30
眼科	第2・第4金曜日	午前 8:00~11:30
	毎月1回・日曜日	午後 1:00~3:30
皮膚科	第2・第4金曜日	午前 8:00~11:30
		午後 1:00~4:00
耳鼻咽喉科	第1・第3土曜日	午前 8:00~11:30
泌尿器科	第1・第3水曜日	午後 1:00~4:00
整形外科	第1・第3火曜日	午前 8:00~11:30
もの忘れ・認知症	毎週火曜日	午後 1:00~4:00
循環器内科	第3火曜日	午後 1:00~4:00
夜間診療	第2火曜日	午後 5:00~6:30

西和賀さわうち病院では、町民の皆様のご要望にお応えし、専門医の応援診療による専門外来を開設しております。左記の診療科は、町外の医療機関に出かけることなく、当院で受診できますのでどうぞご利用ください。※医師の都合により、診療日に変更となる場合がありますので、あらかじめ当院へ確認いただくようお願いいたします。



医療と介護の連携シートの活用 ケアマネジャーとの連携

町立西和賀さわうち病院
副院長兼総括看護師長 村田純子

患者状況の紹介

表1

患者状況(平成27年4月～9月)	
入院患者述べ数	4473人
1日平均入院患者数	24.6人
平均年齢	85歳
介護取得率	76.2%
平均介護度	3.1

25年度に比べ、患者さんの平均年齢が3歳高くなっている。また、在宅からの入院は6.9ポイント減り、在宅への退院も7ポイント減っていることから、介護力の低下が見える。

表2

入院経路、退院先(平成27年4月～9月)	
入院	
在宅系(自宅・SS)	69.1%
病院	16.2%
施設	14.2%
退院	
在宅系(自宅・SS)	63.9%
病院	9.4%
施設	17.3%
死亡	9.4%

2015年介護保険制度改正が行われました。背景には、団塊の世代が75歳以上となる、2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが出来るように、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が必要となるためであります。

地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業には①在宅医療・介護連携の推進②認知症施策の推進③地域ケア会議の推進④生活支援サービスの充実・強化が挙げられています。

そこで当院では、平成27年4月より、地域のケアマネジャーと連携を深め、入院中の生活や退院後の生活支援の充実を図る目的で「医療と介護の連携シート」を活用して、一定の成果を得たので報告します。

表3 見本

介護認定取得・申請中の患者さんが入院したり、退院が決まった時に「医療と介護の連携シート」を活用しています。

ケアマネジャーからは入院時に在宅での様子や、患者家族のご希望等の情報を記載、病院からは、退院が決まったら第1報として入院中の経過や、在宅で注意していただきたい情報を等を記載しています。

地域連携シートの活用状況(平成27年4月～9月)は、病院から41件(44.1%)、ケアマネジャーから14件(12.7%)でした。

連携シートの活用について、認知度・活用状況・活用しての意見を知る為に平成27年8月にアンケート調査をしました。

その結果、まだ活用状況は低いですが、「医療・介護の連携シート」は、お互いのコミュニケーションツールになり、患者、家族の情報を共有できると考えていることがわかりました。

まだまだ、病院の敷居が高いと思われる現実もありますが、改善に向け地域連携に努力していききたいと思います。

アンケート結果

アンケート回収率はケアマネジャー80%、看護師は100%でした。
シートの認知度はケアマネジャーも看護師も100%でした。

みんな知っているよ

図1 シートを読んだことがある

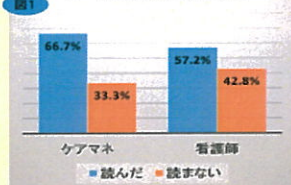


図2 役立つ情報があるか

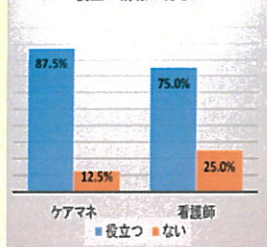
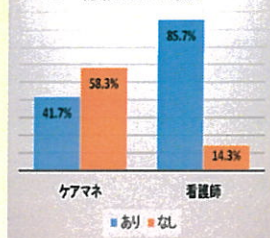


図3 記載したことがあるか



西和賀町農業まつりで“かるしおレシピ” 試食を提供

町立西和賀さわうち病院

管理栄養士 菊池 涼子



子供から“おかわり”の声も！



みんなで“かるしお”調理



塩の摂取が多いのはなぜ？

10月25日に開催された農業まつりに、西和賀町栄養士連絡会員6名が参加し、“かるしお”レシピの試食の提供と減塩についての展示を行いました。西和賀町栄養士連絡会は、今年1月に発足したばかりで、初の試みでした。

当日は、鶏肉と根菜を八方だし汁で煮付け、200食を用意しましたが、1時間程で無くなりました。子供から高齢者まで、おいしいという感想を沢山いただきました。減塩でも美味しい、だしが効いている、普段の味付けを反省した、レシピを知りたいといった感想もいただき、今後の活動の励みになりました。

展示の作成や調理を通して、会員同士が今後どのような取り組みが必要かを話し合ったり、調理の工夫を学ぶ機会になりました。

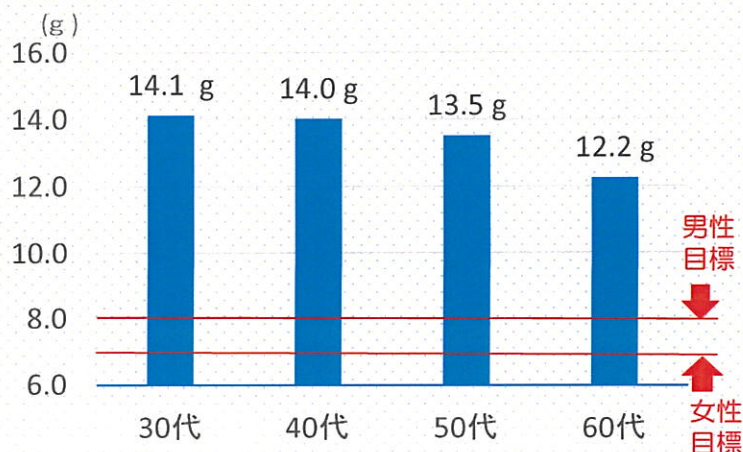
当院ドックにおける調査（H27年5～9月）では、平均食塩摂取量が13gと、とても多く、特に若い世代の男性、独居の方の食塩摂取が多い傾向がありました。

栄養士連絡会は、発足して間もないですが、少しずつ町民の食塩摂取が目標に近づくよう取り組んでいきたいと思います。

「かるしお」とは、塩を軽く使ってうまみを引き出す、減塩の新しい考え方です。



西和賀さわうち病院 ドックにおける 食塩摂取状況（H27年5月～9月）



成人の食塩摂取の目標量は、男性8g未満、女性7g未満とされていますが、目標達成率は約6%と、とても低い状況です。

30代・40代は、子育てしている人が多く、親の食塩摂取が多いと、子供の食塩摂取も多いという報告があります。この年代は、ドックを受診する人が少ないので、ドックだけではなく、栄養士連絡会活動の中で、町全体として改善を呼びかけていきたいです。

合併10周年・新病院完成記念植樹式開催

町立西和賀さわうち病院
事務長 高橋 光世



平成27年10月17日 町立西和賀さわうち病院の敷地で参加者と

10月17日、当院を会場にして岩手県緑化推進委員会西和賀支部（支部長 細井町長）が主催する植樹記念式が小学生や関係者約50名が参加し行われました。

この植樹は町合併10周年を記念して、アサヒビール株式会社からの「緑の募金」を活用し、エドヒガンザクラ、ヤエザクラ、オオヤマザクラを2本ずつ、病院の駐車場入り口と中庭に植樹しました。

式典で北村院長は「この桜は患者さんにとって心の励みになってくれると思います。桜が咲く時期が楽しみです」と祝辞を述べました。今回、3品種の桜を植樹したことにより、桜の花を長く楽しむことと、その多様性を見ることができるとしています。

当院では今年度、環境整備の一環として中庭の緑化工事と併せて、旧病院から日時計の移設を行いました。この日時計は、元院長の加藤邦夫先生が沢内病院を退職された際に記念品として寄贈いただき、デザインと設計は増田進先生が担当したものです。当院にとって由緒ある貴重な構造物であるこの日時計を囲むように、今回3本の桜が植えられことで、訪れる人たちの関心を引くことになるものと思っています。



編集後記

通行止めだった国道107号線が開通して喜んでいたのでつかの間。12月に入り、西和賀町では雪が降り続いていたという間に冬になりました。寒さや雪払いなどの苦痛を実感し、つい気持ちが暗くなりがちで、冬の恩恵はなかなか感じられないものです。でも、子供達とスキー場に行こうとか、雪払いの手を止めたとき白銀の景色を眺めてみようとか・・・これからしばし続く長い冬を自分なりに楽しんでみようと思います。

医療福祉連携室 藤田 智恵



カタクリンコちゃん

町立西和賀さわうち病院 医療福祉連携室担当 村田 純子 高橋 豊宏
〒029-5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-3-12
TEL:0197-85-3131 FAX:0197-85-3135 E-mail:murata7135@town.nishiwaga.lg.jp